

3-2 日本森林学会誌執筆要領

1. 原稿の形式は次のとおりとする。

論文、総説、短報は、学会のウェブサイトあるいは投稿システムのログイン画面より入手したテンプレートファイルを使用し、投稿審査システムの Editorial Manager に投稿することを推奨する。テンプレートファイルを PDF に変換したファイルをアップロードした場合は、受理決定後、テンプレートに使用した MSWORD ファイルを最終原稿として編集部へ提出すること。

テンプレートファイルの使用が難しい場合、原稿書式を 4. のように設定し、(1) 表紙として、原稿種別、表題、簡略表題(ランニングタイトル、25 字以内)、著者名(姓名略さず)、所属、所在地(著者が複数の場合、共著者全員の所属と所在地を明記)、いずれも和英併記(ただし、簡略表題は和文のみ)、および連絡先著者の電子メールアドレス、(2) 要旨および 5 語以内のキーワード、いずれも和文と英文で記載、(3) 本文、(4) 引用文献、(5) 図の題と説明、(6) 図、(7) 表とした原稿を作成し、投稿審査システムの Editorial Manager に投稿する。

Editorial Manager の使用ができない環境の場合、編集部へファイルを提出する。

その他は特に形式を定めないが、すでに掲載されている原稿にならって記述する。ただし、表題の前に巻頭言などの種類を記載すること。

2. **表題**は「……に関する研究」や「……について」などの表現は避ける。

3. **和文要旨**は、論文と総説については 500 字以内、短報については 400 字以内とする。

英文要旨は、論文と総説については 250 単語以内、短報については 200 単語以内とする。要旨中では図・表・電子付録・文献・数式などの引用は避け、改行しない。

4. **原稿**は A4 判の白紙に横書きで、1 枚につき上下左右それぞれ 2cm 程度の余白をとり、10 ポイントの文字の大きさで横 50 字×縦 27 行に整えたものとする。図・表と電子付録以外の原稿にはページをふり、左余白には行番号を付記する(手書きの場合は 5 行おきでもよい)。本誌 1 ページあたり、文字のみで 2,700 字程度入る。

5. **仮名遣い**は現代仮名遣いとし、学術用語以外は常用漢字を用いる。原稿中に欧語を用いるのは、その必要がある場合に限る。動物・植物の和名は片仮名書きとし、学名はイタリックとする。単位は SI 単位とする。

6. **倫理的配慮を必要とする研究**の内容を含む原稿のうちヒト・脊椎動物及び法的規制のある無脊椎動物が扱われたもので、当該研究が行われた機関において事前の承認が必要とされている場合には、その承認を受けたことを本文中に記載する。

7. **利益相反の状態**について、引用文献リストの前に記載する。該当するものがない場合は、開示すべき利益相反がない旨を記載する。

8. **学術用語**は、当該原稿の分野における主要学会の示す提言や指針、森林科学用語集(財団法人林学会 2001)、森林学の百科事典(日本森林学会編 2021)などを参考にする。

9. **図・表**の題にはそれぞれ通し番号(図-1、表-1 など)をつける。英文の図・表の場合は、和文の題に英文を併記し、それ以外の部分はすべて英文とする。

図:印刷したときの品質が鮮明なものとする。図に使用した記号やグラフの網掛けの凡例は図中に入れる。用

紙の右上に図の通し番号(図-1 など)を記載する。図の修正、書き直し、文字の貼り直しは著者の実費負担とする。カラー印刷希望の場合は、その製版印刷の全額を著者負担とする。

表:大きさは原則として、1 ページに印刷できる限度以内とする。表の縦けいは省き、横けいもできる限り省略する。図化できる表は、図にすることが望ましい。題は表の上に、脚注は表の下に記載する。

図表は本文中に挿入することを推奨するが、解像度の高い元の図やデータがインポートできる表のデータのファイルを必ず図、表としてアップロードする。

10. **電子付録(付図・付表など)**は、必要のある場合、オンライン出版の電子的補助資料としてつけることができる(合冊には掲載されない)。付図・付表の記載方法は上記の図・表に従う。ただし、付図には題と説明を図の下に記載する。1.とは別のファイルとしてアップロードする。

11. **J-STAGE Data** でデータ等の公開をする場合、「J-STAGE Data での論文データ公開について」を参照の上でファイルを作成し、J-STAGE Data 担当者(jifs@capj.or.jp)に連絡すること。また、J-STAGE Data 以外のデータリポジトリサーバーを利用する場合は、投稿時に編集部まで連絡すること。

12. **引用文献の記載方法**は Council of Science Editors (CSE) スタイル※に準拠する。著者名のアルファベット順に記載し、同一著者の文献が複数ある場合には発行年順とする。本文中での引用は、該当人名に(年)あるいは事項に(人名 年)をつけて引用する。著者が 2 名の場合は(人名・人名 年)、(name and name 年)のように引用する。また後者の方法で著者(ただし、著者が 3 名以上の文献は筆頭著者のみ)と発行年が同一のものは、年の後に a, b などをつけて区別する。引用頁を明らかにして参照する場合は、人名(年, p.○)または(人名, 年, p.○)とする。

文献リスト中の著者名が 10 名を超えた場合は 10 名 + et al. の記載とする。和文の著者名の姓名の間にはスペースを入れない。誌名の略記法は慣例にならない、見つかからない場合は略さない。巻通しページがある場合は巻のみとし、ない場合は巻(号)を併記する。ジャーナル・書籍以外のウェブ登載の記事やプレプリントについては、参照した日付あるいは閲覧した日付を記述する。和文の出版地は都市名とし、英文の出版地は曖昧さを避けるため州名や国名を表す 2 文字をカッコ付きで加える。単行本がオンラインのみや出版地の記載がない場合は、出版社のみを記載する。記載方法は下記の例に従う。

EndNote や Mendeley などを利用する場合は、Standard CSE Style Manual, 8th ed. (Name-Year)あるいは TF-Standard CSE を選択し、和文は下記の記載に倣う。

例

a. 雑誌の場合

笠井美青, 丸谷知己. 1994. 山地河川における立木群による土砂の滞留機構. 日林誌 76(6): 560-568.

Osumi K, Masaki T. 2023. Longevity of tall tree species in temperate forests of the northern Japanese Archipelago. J For Res. 28(5): 333-344.

b. 書籍の場合

Levitt J. 1972. Responses of plant to environmental

stresses. New York (NY): Academic Press.
渡邊定元. 1994. 樹木社会学. 東京: 東大出版会.

c. 書籍中の場合

小林繁男. 1993. 熱帯土壌の瘦悪化. 真下育久編, 熱帯
林土壌. 東京: 勝美堂. p. 280-333.

Wells JF, Lund HG. 1991. Integrating timber information
in the USDA Forest Service. In Minowa M, Tsuyuki S,
editors. Proceedings of the Symposium on Integrated
Forest Management Information Systems. Tokyo: Japan
Society of Forest Planning Press, p. 102-111.

d. Web の場合

林野庁. 1999. 国有林野の管理経営に関する基本計画;
[参照 2022.8.15]. https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kanri_keiei/kihon_keikaku.html

Forestry and Forest Products Research Institute. 2022.
Digital soil map of Japanese forest; [accessed 2022
Nov 25]. <https://www2.ffpri.go.jp/soilmap/>.

e. プレプリントの場合

奥島里美. 2022. 植物体の簡単な電氣的等価回路モデル I. Preprint:Jxiv.
<https://doi.org/10.51094/jxiv.128>.

Wang C, Zhao CY, Li KM, Peng SZ, Wang Y. 2021.
Estimating the spatial distribution of soil organic carbon
and soil total nitrogen stocks by remote sensing
methods: a case study in a forest-dominated alpine

watershed. Preprint: Research Square.
doi:10.21203/rs.3.rs-691637/v1.

13. 本文中で用いる注は、引用すべき場合とは区別して用い、引用文献の前に「注」として番号をつけてまとめる。

注

(注 1)

(注 2)

※以下を参照:

<https://www.scientificstyleandformat.org/Tools/SSF-Citation-Quick-Guide.html>

(2011 年 5 月 28 日改定)

(2017 年 4 月 18 日改定)

(2018 年 4 月 23 日改定)

(2019 年 4 月 24 日改定)

(2021 年 12 月 20 日改定)

(2022 年 9 月 9 日改定)

(2023 年 12 月 4 日改定)

(2024 年 4 月 22 日改定)